

「新たな伝統校誠之館の創造」に向けた施設づくりの在り方

軸

福山城から続く南北の軸線『誠の道』
朝日が昇るグラウンドからの東西の軸『人の道』
この二つの軸線に沿って新校舎を配置し学校としての
一体性・拡張性を創出します。

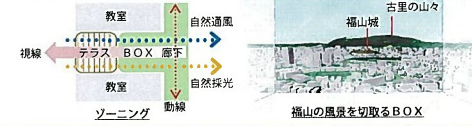
配置計画 ～新たな姿～

- 屋外空間と屋内空間に連続性を持たせ、軸線に沿った豊かな教育空間を目指します。
- 隣棟間隔を確保し、自然通風・自然採光を取り込む計画とします。
- 建物の位置を既存施設と同じとすることで、数多くある記念樹を残し緑豊かな環境を保存します。
- 建物は東西を短くし、西側住宅地からの距離を十分にとることで、地域の生活環境に配慮した計画とします。

コミュニケーションBOX ～学び合う空間～

- 教室間に様々な創造と交流をもたらす場として、また学び合える自習空間として、コミュニケーションBOXを設けました。

- 南から吹いてくる心地よい風を校内に導き入れ、地域木材のつらえにより木の香りがフロア全体広がります。



メディアモール ～知と情報の共有～

- メディアモールは情報の集積・発信・共有が行われる学校の中心拠点として整備します。また文化活動を発展させる場所として、作品展示などが行える広さを確保し、生徒のたまりの場にもなり、新たな交流や創造を生み出します。

- 1階の文化ステージに面する外壁は開放ができる建具を設置し、外部と一体的な利用ができる空間とします。
- 情報化に伴う社会状況の変化に考慮したデジタル機器で掲示できる環境を整備します。

動線計画 ～つながり～

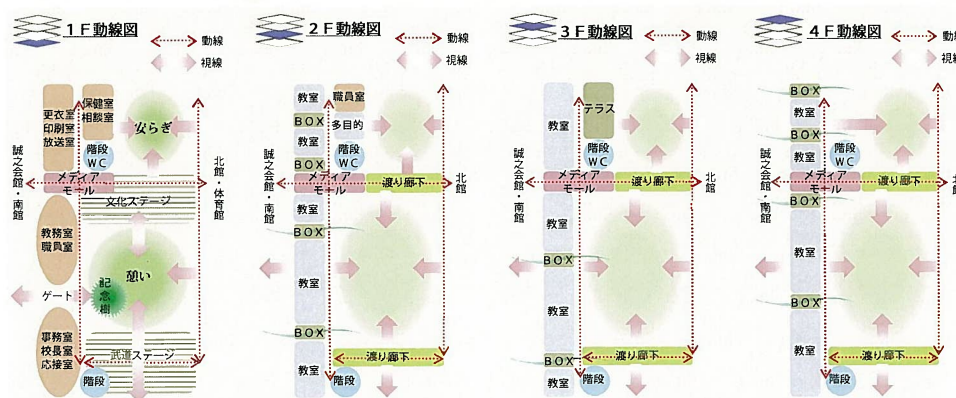
- 継承の庭と創造の庭をつなげるゲートは外壁をやさしく円形とすることで、人や風が自然と導かれていきます。
- 北館への渡り廊下は、既存施設の避難階段や特別教室の位置を考慮して現況とほぼ同じ位置に2ヶ所設置します。1階は中庭に設けたステージの一部として、上階は観覧席とする屋外遊技場をイメージした特色ある空間とします。

- 誠之会館・南館への渡り廊下は、登下校時の混雑に配慮して幅員を広く確保し、バリアフリーとする為に緩勾配のスロープで計画します。また生徒が通る抜ける生徒の門として誠之会館と調和を図った立面デザインとします。

- 階段も中庭がのぞめるよう透明感のあるデザインとし、避難、移動が円滑に行える十分な広さを確保します。

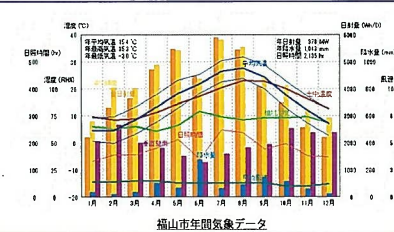
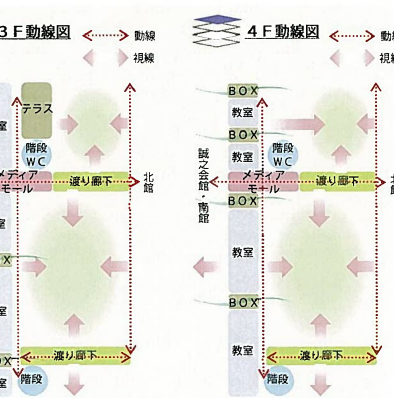
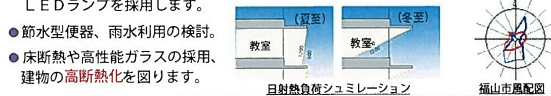
セキュリティ ～安心・安全～

- 職員室、事務室は来校者の対応がしやすく生徒を見守りやすい1階に配し、外壁は中庭へと視線が抜けていくガラスを使い、機械だけに頼らないセキュリティ空間を実現します。
- 上層階の校内の様子は、開かれたコミュニケーションBOXから外部へと自然に伝わり、安心・安全を確保します。



福山市の自然環境を考慮した省エネ・省資源 ～地球環境～

- 風：福山の風況図によると概ね南北に風が流れています。東西に配置された建物に風の通り道を造り自然換気を促進します。
- 熱：南に庇を大きく張り出し、夏の日差しを和らげ空調負荷を低減し、雨などによる外壁の経年劣化を大きく防ぎます。
- 学校の消費エネルギー特性を考慮し高効率照明や、人感・照度センサーLEDランプを採用します。
- 節水型便器、雨水利用の検討。
- 床断熱や高性能ガラスの採用、建物の高断熱化を図ります。



「既存建物とのつながりを考慮した豊かな精神を育む憩い空間の在り方」

井

軸線上に、4つの庭とステージを設け、歴史、現在、未来の中庭をつくり、生徒・先生が共に過ごしコミュニケーションを育む空間を創出します。

継承の庭 ～歴史～

- 桜並木の誠之坂を上がる旧誠之館の玄関や史跡があります。異立っていく卒業生の、記念碑が設置できる場所を造り、通学する生徒が自然と誠之館の歴史を感じ、学ぶことができる庭とします。
- 石畳や砂利敷きなど、日本古来のしつらえを施し迎賓空間として整備します。



創造の庭 ～現在～

- 新しい校舎を通り抜けると、建物に開かれた中庭があります。四季を感じる花々と記念樹の木蔭によるやさしい空間の中で生徒・先生が憩い、交流し創造を生み出す場をつくり出します。



文化ステージ ～つなぐ～

- 建物と建物を繋ぎながら、誰もが参加できる場所に、人と人の心を繋ぐ文化ステージを設けました。
- 書道部の大書や、ボランティア活動や記念祭などの外部での文化活動の中心の場となります。



武道ステージ ～エール～

- グラウンドに面する武道ステージは応援団やチアリーダー、吹奏楽部が、様々な人へエールを送る舞台として、また文化ステージと連携したイベント広場として活用できます。



休息の庭 ～回復～

- 新たに整備する本館と北館に挟まれた、夕日が差す場所に、生徒の安らぎの空間として、休息の庭を整備します。
- 保健室や相談室と隣接させることで、空間に安心感をもたらします。



発展の庭 ～未来～

- 将来、北館や体育館が整備される時にその間の空間を憩いの拡張スペースとして整備することを提案します。
- 誠之館の伝統がさらに積み重ねる場所として発展の庭と名づけました。



施設計画 ～柔軟な施設づくり～

- 学習ニーズの多様化に配慮して、間仕切壁は乾式工法により計画します。
- 災害時の建物機能や室内環境を維持するために堅牢な構造と、家具や二次部材にも耐震性能を確保します。
- 学校の姿を未来に伝えるために、歳月の経過と共に味わいが増していく木材や土、石など自然素材を採用を検討します。
- 経済的なスパン割を採用することでコスト削減を図ります。

